

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目次

Preface 巻頭言		
「Q1論文の促進に向けて」	岡村 仁	1
Greetings 副研究科長ご挨拶		
「大学院教育の質向上と学位取得環境の改善に向けて」	岡田 賢	2
Topics		
「KASUMI 異分野融合研究拠点について」	岡村 仁	2
Greetings ご挨拶		
「就任のご挨拶」	加澤 佳奈	3
「就任のご挨拶」	谷本 圭司	3
「就任のご挨拶」	大河内彩子	4
「就任のご挨拶」	宮崎 充功	4
「就任のご挨拶」	有井 潤	5
「就任のご挨拶」	岩本 博志	5
Activities 研究科の活動		
「学際的研究推進部会（グループ会議）のご案内」	岡村 仁、各グループ長	6
My Motto 座右の銘		
「吾唯知足」	田代 聡	7
「よく遊び、よく学べ」	二川 浩樹	7
Excellent Paper すぐれた論文		
「世界初、日本発の新規抗うつ薬 PAC1 受容体遮断薬の開発を目指して」	吾郷由希夫	8
「重症患者における人工呼吸関連事象と死亡率の関係の再評価」	志馬 伸朗	9
「健診で発見された心房細動と心血管イベントリスク：就労世代における大規模コホート研究」	福間 真悟	10
Research Frontline 研究最前線		
「蝕蝕原性細菌 <i>Streptococcus mutans</i> が全身に及ぼす影響を追究して」	野村 良太	11
「安全な遺伝子治療の実現へ：相同組換えを最大化する次世代ゲノム編集プラットフォーム」	野村 渉	12
編集後記	橋本 浩一	13

Q1論文の促進に向けて

大学院医系科学研究科長 岡村 仁



医系科学研究科では、研究力強化の重要な柱の一つとして、SCI論文（Web of Science収録論文）の中でも、各学術分野においてインパクトファクター（IF）上位25%以内に位置づけられるQ1論文の増加を目指しています。Q1論文は、国際的に高い評価を受ける研究成果の指標であり、研究科全体のプレゼンス向上や国際競争力の強化に直結します。そのため、本研究科では研究者が意欲的に挑戦できる環境整備を重視し、戦略的な支援策を講じてきました。こうした背景のもと、このたび新たに以下の2つの取り組みを開始しました。

一つ目は、「医系科学研究科学術論文助成金授与規程」の制定です。本規程は、優れた研究成果を挙げ、国際的に評価の高い学術誌に論文を発表した若手・中堅教員に対して助成金を授与し、研究意欲の向上と学術活動のさらなる推進を図ることを目的としています。具体的には、論文投稿年度の4月1日時点で36歳以上45歳以下の研究者が、筆頭著者としてQ1ジャーナルに論文を発表した場合、オープンアクセス化に必要なArticle Processing Charge（APC）について、20万円を上限に助成します。さらに、上位10%に相当するTop10%論文については、追加で10万円を上限に支援します。本制度の対象年齢を36歳以上45歳以下としたのは、若手・中堅教員に積極的にQ1論文へ挑戦してもらうことに加え、本学の既存制度である「Q1ジャーナルAPC助成」において、36歳以上の研究者は助成率が50%にとどまることを踏まえたものです。なお、35歳以下であっても、当該年度の本学APC助成の予算が終了した場合には、本規程の対象となります。

二つ目は、「医系科学研究科Q1ジャーナル投稿による学位取得遅延者就学支援金授与規程」の制定です。本規程は、大学院生がQ1ジャーナルへの投稿に挑戦した結果、査読の長期化により修業年限内に学位取得に至らなかった場合に、修学継続を支援することを目的としています。具体的には、最終学年に在学し、修業年限内にQ1ジャーナルへ学位論文を投稿したものの査読が終了せず、修業年限を超過した場合において、超過後半期以内に論文が受理され学位を取得した者を対象に、追加で負担した授業料を半期分を上限として支援します。これにより、研究の質を重視した挑戦を後押しする仕組みとしています。

これらの制度の導入により、教員においては国際的に影響力の高い研究成果の創出が促進されるとともに、大学院生においても高水準の学位論文に挑戦する意欲の向上が期待されます。本研究科としては、これらの制度を積極的に活用していただくことで、Q1論文のさらなる増加と国際的に高く評価される研究成果の創出を一層推進していきたいと考えています。教員・大学院生の皆様におかれましては、ぜひ本制度を活用し、積極的にQ1ジャーナルへの挑戦に取り組んでいただくことを期待しています。

